

光と風

病院と患者さま、そして地域の皆様を結ぶコミュニケーション誌

当院の取り組み

病院機能評価認定

～新たな医療の質の向上に向けて～



院長 坂本 哲也
(脳神経外科)



平成16年5月17日待望の認定証を手にしました。受審することを決めてほぼ一年半、この日を本心に待ちこがれておりました。全国に約9000の病院があるといわれていますが、1260病院がこれまでに認定されています。

ところで、病院機能評価とはどのようなものなのでしょうか。患者さんが安心して医療を受け、そして安全に医療の恩恵を受けることができるように、患者さんや地域社会の視点から病院の医療の質そのものを評価するために、平成7年に日本医療機能評価機構が設立されています。この機構が、それぞれの病院の状態を審査と訪問審査を行うことにより、地域のニーズに応えた質の高い医療を実践しているかが評価されるわけです。これまでに1260病院が認定されているとのことです。認定条件は、全国的に統一されています。秋田県では、厚生連由利組合総合病院が平成9年に最初に認定され、以後本荘第一病院、秋田大学病

病院は変革にせまられている

～病院(医療従事者)受難の時代
副院長に就任して強く感じること～



副院長 阿部 栄二
(整形外科)

秋田市内には他に競合する4つの大きな病院があり、私たちが院長には現在の難問解決だけでなく、生き残りをかけた模索など、歴代院長にはなかつた未曾有の難問が降りかかっています。病院全体を見渡す管理職の一翼を担うことになって数ヶ月、院長の苦勞の大きさが少し理解できるようになりました。病

高齢化に伴う医療費増加の抑制政策に基づく医療改革、毎日のように報道される新聞・テレビの医療過誤、これに誘発された医療への不信感と権利意識の高揚、医療を囲む環境は益々厳しくなっています。医療過誤の不安をかかえながらの多忙な仕事、日常化した残業、増え続ける雑用などで、病院職員は疲弊しているのではないかと心配になります。現在ほど医療の「質」と「効率」が問われたことはかつてありませんでした。医療の経済性「効率」が優先されると、やがては患者さん自身に廻っていくことが懸念されます。平成18年から日本版包括医療費支払い制度(DPC)が始まることさらに状況が悪化すると思われる。患者さんが好むと好まざるに関係なく在院日数が短縮され、病床稼働率が低下し、潰れる病院が続出すると予測されています。

院、脳研センター、土崎病院、外旭川病院が認定されています。

今回の認定は、これまでの当院の地域医療に対する取り組みが評価されたものと考えています。この審査過程で明らかになったことがあります。それは、患者さんの安全を最優先させることが病院の使命だということ。その一環として、当院では「お薬手帳」を積極的に利用することで重複投与を防ぐ取り組みをしております。院内のお薬は院内病歴(薬歴)を参照することによりチェックできますが、他の医院・診療所からのお薬は「お薬手帳」を参照することで重複をさけることができます。また、検査の種類を手帳に記しておけば、重複検査が防げます。県内では少しづつ「お薬手帳」の有効性が理解されてきていますが、今後はもっともって利用してもらおうことをアピールしていく必要があります。

当院の病院機能が評価機構から認定されたことで終わりではなく、この認定を足がかりにさらに一段と安心・安全の医療に向かう決意です。今後ともよろしくご指導をお願い申し上げます。

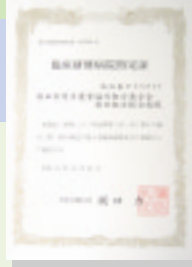
院の新築移転に伴い、病院のあり方の見直しが始められ、医療機能評価機構からの認定、厚生労働省から臨床研修病院の指定、救急医療体制や地域医療連携の充実、クリニカルパスの導入、医療安全対策室の設置、地域医療支援病院の取得対策など生き残りをかけた病院改革が現在進行中ですが、さらに強力に押し進める必要性を感じています。自ら変わって行かねば自分たちの未来はないと感じている職員が少なくないことは大変心強いことです。恐竜の絶滅は環境の変化に対応できなかつたものの運命を意味します。柔軟性を失いつつある中堅以上の職員にとっては環境の変化に応じて変わることは大変な努力です。しかし変わらなければ恐竜やそのう百貨店、三菱ふそうトラック・バスと同じ運命が待っています。ダーウィンの進化論は「強いものが生き残れるのではなく、環境の変化に応じて変わるものだけが生き残れる。」ことを教えています。今必要なのは危機感の共有と職員一人一人の意識改革です。地域住民から信頼される病院、そして職員が誇りに思える病院、さらに医師が魅力を感じて集まってくる病院づくりが将来を安泰にするものと考えています。

臨床研修病院に指定される

～医療の質の向上と病院内活性化のために～



事務次長 東海林 誠



医師法の改正に伴い、平成16年4月から医師の卒後臨床研修必修化が開始されました。この背景には、「2年間の研修に専念し、最初の治療の基本的な診療能力を身につけるべき」との考えによるものです。当院は、医療の質の向上と病院内の活性化を目的に名乗りをあげ、平成15年10月27日管理型臨床研修病院として指定されました。秋田組合総合病院臨床研修プログラム(プログラム番号030929101)とし、協

力施設として秋田緑ヶ丘病院(精神科)・秋田市保健所(地域保健・医療)にお願いしてあります。県内の指定は11病院(秋田大・中通・日赤・市立秋田・秋田・由利・本荘第一・仙北・平鹿・公立横手・雄勝)で、指定基準には医師数・指導医・臨床病理カンファランス・医療安全管理体制等があります。平成17年4月からの研修医募集に際し当院の予定は、医師臨床研修マッチングに参加し、7月31日(土)応募締切、8月8日(日)または8月21日(土)午前10時より選考(面接・作文)となっております。

医療安全対策室の設置

～信頼と安全な医療をめざして～



看護副総師長 鎌田 順子

平成16年4月に、医療事故を防止し、患者さまとの信頼関係を高め、患者さまが安全で安心な医療が受けられることを最重点に「医療安全対策室」を設置し、医療の安全管理体制の充実と強化をはかっております。当院では、平成12年6月の新病院開設以来、各部署にリスクマネージャーを配置し事故防止に取り組んでまいりました。特に、医療現場で医師、看護師をはじめとした職員全員が「ハット」として「ヒヤリ」とした経験をレポート提出する体制をとっております。その原因や要因を抽出し防止対策を徹底していく土台ができたことは、成果と考えております。おかげさまで大きな医療事故を経験することなく4年目を迎えることができました。

2. 医療事故・医療に関するクレーム対応
事故発生時には、病院が全力で迅速に適切な対応をいたします。また、クレームの内容を良く聞き、真摯に対応します。

3. スタッフ教育
事故防止に関する研修、教育活動を行います。以上のことを医療事故対策委員会、医療安全管理委員会との共同の元に、活動してまいります。よろしくお願いたします。

1. 医療事故防止対策の徹底

発生したエラーの原因を解析し再発防止に努めます。職場横断的に活動します。

病院の基本理念

わたしたちは、生命の尊重と、平等な人間愛を基本とします
地域の基幹病院としての自覚をもち、明るく豊かな社会づくりに貢献します

- 一、患者さまの信頼と満足が得られる最善の医療・看護をめざします
- 一、患者さまの必要とする情報の提供につとめます
- 一、患者さまのプライバシー保護に万全をつくします

秋田組合総合病院の患者さまの権利

わたしたちの病院では、安全で質の高い安心な医療を提供するために、患者さまの権利を保証することをお約束いたします。

この権利は、患者さまと医療従事者の共同の力で行使され、継続・発展されていくもので、患者さまの立場にたった医療に不可欠の内容となっております。

1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利
 2. 人格を尊重され、専門的医療の対応と援助を受ける権利
 3. 自己の医療内容を知る権利や医療情報の開示を求める権利を有し、十分な説明と情報提示のもとで、治療方法に自己決定できる権利
 4. プライバシーを保護される権利
 5. 健康教育を受ける権利
 6. 医療参加の権利
- 病院の諸規則を知り、医療内容や病院の運営に提言し、ともに医療改善の活動に参加する権利

なお、すべての患者さまが適切な医療を受けられるために、患者さまには、他の患者さまの治療や医療従事者による医療提供に支障を与えない配慮をする必要があります。

絵画・彫刻の紹介



「雲遊天下」
展示場所 / 1階 消化器科・外科外来待合

作者 / 金子 義徳 (秋田市飯島在住)
昭和15年山本郡八竜町生まれ。筑波大学附属ろっこう学校美術専攻科中退。現在、日洋委員。日展会友。秋田県芸術選奨受賞。日展特選受賞。現代美術選抜展。秋田県庁第2庁舎壁画制作。日本現代美術作家選抜20人展(パリ)。

癒し
の環境



「製材所」
展示場所 / 2階栄養相談室前廊下

作者 / 原田 拓 (秋田市飯島在住)
昭和4年秋田市生まれ。秋田師範卒。現在、無所属。日本版画協会、自由美術協会等に出品。
「製材所」は、先年焼失した土崎製材所を市生協から見た風景です。病院を訪れる方々の中にはこの風景を知っていて、懐かしく思われ方も多いのでは。
「金浦風景」は、金浦港付近での取材。二点とも版木20枚程を刷り重ねた木版画です。

「金浦風景」
展示場所 / 2階栄養相談室前廊下



地域医療連携室の体制を強化

～地域医療の水準向上に寄与するため新たにスタート～



連携室室長 木津 典久 (泌尿器科)
看護副部長 野崎 富士子
事務 堀川 千佐子

地域医療連携室 看護副部長 野崎 富士子



も早期に対応できるようになり、地域の開業医からの検査依頼は増えつつ

開業医と病院の連携する一貫した診療によって確実な診断と治療が得られ、時間的・経済的負担が軽減されることをめざして、平成13年1月に設置した「病診連携室」を平成16年4月から「地域医療連携室」と名称をかえ、看護師1名と事務1名で新たにスタートいたしました。体制を整備し、医療連携を積極的に展開することが地域の医療の水準向上に寄与できるものと考えております。

さらに、地域医療連携室では地域の開業医を訪問し、ご理解を得ながら登録医も増えてきており、紹介患者さまの受け入れもスムーズに行えるようになりました。また、開業医が当院に来院し協力して治療を行う開放病床もご利用いただいております。

「連携室だより」を発行し当院の情報を提供しながら、今まで以上に地域とのコミュニケーションを図り、「顔の見える連携室」をめざし努力してまいります。地域医療連携室をさらにご利用いただくとともに皆様方からのご意見、ご要望をお聞かせいただければ幸いです。

総合診療科の開設

～受診科を決め難い方のために～

内科医師 科長 福田 二代

「総合診療科」って、一体なんでしょう。病院毎、担当医師毎に少しずつ意見が違っています。大きな病院では「臓器別に」診療科が分かれており、一体どの科にかかればいいのか、医療者でも分かりにくい状態です。また一人で複数の病気を抱えた患者様もおります。高度に専門化、細分化された弊害を少しでも減らすことを目的に開設いたしました。

総合診療科開設のお知らせ

- 平成16年6月より、日中の診療科の不明な患者さまは、総合診療科として救急センターにて診察を行います。
- 診療日時 / 毎週 月曜日の午前
毎週 水曜日の午前
毎週 金曜日の午後
 - 診療場所 / 救急センター
 - 担当医師 / 内科医師 福田二代

女性外来の開設

～細やかな問題を抱えた女性のために～



内科担当医師 科長 福田 二代
婦人科担当医師 科長 木村 菜桜子

あちこちで「女性外来」の話が新聞を賑わしています。直接的には、陳情を受けた寺田秋田県知事が県内の主要病院に開設を要請したことが発端です。当院でも開設に向けて検討してまいりました。病に侵されれば、男も女も違いはなく苦しいものですが、原因から結果に至るまでに、性差による病状の現れ方には大きな違いがあることを念頭において診察をすることが、女性の診察において大事であることを知らされました。

女性外来開設のお知らせ

- 平成16年6月より、ご要望の多い女性スタッフによる女性のための外来を開設いたします。
- 診療日時 / 毎週水曜日14:00より(婦人科は月曜日1回)
 - 診療場所 / 外来⑩番 消化器科外来
 - 担当医師 / 内科医師 福田二代 婦人科医師 木村菜桜子
一人30分をメドに相談に応じます。
内科医師 14:00より4人 婦人科医師 15:00より2人
 - 予約診療 / すべて電話による予約制となります。
受付時間 / 月～金曜日の14:00～16:00まで
電話番号 / 018-880-3000 内科医師 福田まで

日本病院会の「優良一泊人間ドック施設」に指定

～健康管理への手助け～



保健福祉活動室 室長 佐伯 剛

平成16年1月15日付けで、社団法人日本病院会の「優良一泊人間ドック施設」に指定されました。この制度は、日本病院会が、人間ドックを一定の水準以上に高めることを目的に行っているものです。当院は、平成12年6月の移転新築を契機に人間ドック施設・体制の充実をはかり、受診者は年々増えています。今回の指定は、そのとりくみが総合的に評価されたものです。

近年、生活習慣病や健康チエックのため増えている外来ドック、入院ドック受診者にとっては信頼できる指定です。

夜間防災訓練の検証

～消防署と病院のはじめての試み～



総務課係長 湯澤 仁

平成15年11月17日午後夜間の火災を想定した防災訓練を行いました。今回は土崎消防署と打合せを行い、まだ、総合病院ではあまり実施されていない消防署の検証を伴う夜間防災訓練を西5病棟(特定リハビリ)を対象に行うことになりました。当日は、夜間の体制と全く同じに医師2名、救急外来看護士3名、事務・守衛3名、検査科・放射線科・薬局各1名、各病棟看護士2名、3名を配置し、土崎消防署員8名が出火場所の確認・非常放送・現場確認・通報・初期消火・防火扉の閉鎖・避難誘導等にかかる所要時間を計測しました。患者様からも参加していただき、実際に即した状況での訓練のため参加者は皆真剣に取り組んでいました。はじめての検証訓練にしては、短時間で避難が完了



し良好という消防署の講評をいただきましたが、反省点もあり今後の訓練に役立てていきたいと思っております。夜間は勤務者も少なく、患者様をすみやかに安全に避難させるためには、院内全体の連携が必要で、火災は絶対に発生させはなりません。が、万一を考え今後も検証を伴う訓練を重ね夜間防災対策に万全の体制を構築していきたいと考えております。

館内禁煙にご協力を

事務長 水澤 重克



平成16年5月1日から館内禁煙といたしました。当院では平成12年の新築移転から分煙を行ってまいりましたが、当時から分煙を行ってまいりましたが、当院では平成15年5月に健康増進法の施行とも相まって、秋田市内医療機関は積極的に禁煙を推進することになりました。当院としても館内では禁煙とすることにしました。

最近、厚生労働省の研究班は以下のような研究発表を行いました。たばこを吸う人ががん罹患するリスクは、たばこを吸わない人に比べ、男性で1.6倍、女性で1.5倍であるとのこと。もし、たばこがなくなったら毎年9万人ががんにかからなくなると推定されます。この研究は秋田県横手市、長野県佐久市などに住む人々を10年追跡調査して得た結果です。また、女性にとっては肌の老化を促進させるなどの研究もあります。青少年からの喫煙はニコチン依存症を作る要因にもなっているそうです。

本年4月から本誌「光と風」の編集委員の仲間入りをさせていただきました。右も左もわからない未熟者ですが少しでもお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。さて第4号も関係各位のご尽力によりここに発行の運びとなりました。今回の目玉はなんと「医療機能評価認定」でしょうか? いくつかの問題点を最初の機能評価で指摘され、それらを解決した結果の認定でした。今後の当院の発展の礎になることが期待されます。また時代の流れとそれに伴う要望は多様化し、時々刻々変化しており、それにこたえるべく当院にも総合診療科と女性外来が開設されました。それが地域のみなさんに一日も早く認知され、有効に機能する日が来ることを期待されます。

最近の世の中はイラク戦争をはじめ多くの人たちの命が自分たちの意思とは無関係に奪われたり拘束されたり、幼い命が親や友達の手で奪かされたりするニュースが引きもきらず流れています。そんなやせいな暗い気持ちも少しも忘れさせてくれるであろうオリンピックの開幕がなぜか今回はやたら待ち遠しいのは私だけでしょうか?

(遠藤 和彦)

編集後記